

# 令和6年度 緑区区民対話会 議事要旨

日時：令和7年3月23日（日）10時00分～11時20分

場所：大椎台自治会館 会議室

参加者：越智地区町内自治会連絡協議会 12名

千葉市あんしんケアセンター 2名

（区役所）緑区長、緑区地域づくり支援課長、緑区地域づくり支援課職員

（市役所）市民自治推進課職員

- 1 開会
- 2 区長挨拶
- 3 意見交換「越智地区の現状について」
- 4 地域運営委員会について

## ○越智地区町内連絡協議会長

- ・昨年4月に9町内自治会で地区連協を設立した。目的は、少子高齢化の進行に伴う福祉面での充実、災害への備え、市や関係諸団体・自治会間の連携によるきめ細かなネットワークによる助け合い・支え合いを行う必要があり、単位自治会の対応では限界があるため。地区連協が引っ張るのではなく各町内自治会からの課題を下支えしていきたい。
- ・初年度の共通の課題として災害問題、高齢化に伴う地域の助け合い・支えあいをどうやっていくのか検討してきた。2年目からは経験を踏まえて2か月に1回役員会で共有する予定。
- ・災害面では村田川に関連し、昨年の10・11月に越智町内会のメガソーラー施設建設の話があり、事業者とやりとりをしている。茂原の一宮川などの状況を見ると、メガソーラー設置が宅地等への雨水浸透の阻害行為になるため水が浸透しないような改良をしないよう、千葉県では事業者を縛っている。千葉市はどのように対処すべきか、というのがこれからの課題である。
- ・災害時要配慮者支援体制について、支援者対象名簿を受け取ってもどうやっていいのか、老後の介護、老後の助け合いがどこでもできるわけではないと考える。
- ・生活の足、買い物の難民、ゴミ出し分別、将来は個別収集にできるのかということや、自治会活動についても役員のなり手不足、デジタル化への対応が困難という課題もある。必要であれば、自治会活動をより軽減化するネットワークでいたい。

## （区長）

- ・メガソーラーに関しては、私も関係部局より地元と事業者との間で話し合いが持たれたという情報を得ている。ただし、国に地域の皆さんの生の声が伝達されているのか、心配である。地域の意向がきちんと報告されているのかということについて、市の担当部門を通じて国には伝達したい。今後、まずは、事業者の対応を見定めたい。この後、事業者とのやり取りは何か予定されているのか。

○越智地区町内連絡協議会長

- ・事業者より住民説明会での質疑へ回答、議事録をいただいたので、それを踏まえ再度、要望・質疑を行い、必要に応じて説明会を開催していただきたいと考えている。事業者としては建設工事を6月に初めて12月に完成したいとのことで、スムーズには進まないと思うが、今の状態ではますます村田川の氾濫の危険が増してしまうため、規制をする必要があるのではないかと考えている。

( 区長 )

- ・令和元年以降、村田川については千葉市も警戒をしている。千葉県が管理している河川であり、県は部分的な改修は行うものの、最近の豪雨に耐えられるような抜本的な対応については今のところ「すぐにやります」といった答えはもらえていない。最近の雨は10年前と比べても違う、夏場から秋にかけての豪雨は特に注意が必要であると感じている。地域と情報共有を通じて問題に向き合っていきたい。

○大椎台自治会

- ・茂原の一宮川では河川整備だけじゃ水害は防げないため、総合治水に舵を切った。範囲は違うが、総合治水でどこまでできるのかというところに踏み込む必要があるのでは。河川改修だけでは無理だということは明らかである。24時間で500mmの雨が降るということを前提に考えたら、河川改修だけじゃ無理だから、考え方を変えていくということが必要ではないか。

( 区長 )

- ・私も現場を確認したが、湾曲している箇所が大きな被害を受けるというところで、河川整備に加え、そのような視点も必要であると考えます。

○大椎台自治会

- ・自治会でごみ問題に携わっている。30年近く前に集団回収が始まり、住民で月一回集めている。その後、千葉市が資源回収を週一回行うことになり、どちらに出してもよい、という形に切り替わった。古い人は50年近く住んでおり高齢のため、月一回溜めて持っていくことはできず、週一持つていくことも負担となっている。厚生部の役割として、ごみステーションを細かくしていくことに主眼を置き、同時に分別も細かいため、分からなくなってしまっている人の手伝いをしている。
- ・千葉市からは1ステーションあたり10~20世帯程度でやっていただきたいとのことだったが、自治会としては最小限度5世帯ぐらいで細かなステーションを作ることとしており、最終形は個別収集をしていただきたいという願いがある。千葉市としても将来的には個別収集に行くような形をお願いしたい。

( 区長 )

- ・個別収集は財政負担が大きく、清掃工場に持っていくための運搬方法、道路事情なども影響し、個別収集に踏み切るには相当なハードルがあるという議論をしてきた。確かに個別収集している自治体もあるが、現状において千葉市では実施には至っていない。
- ・ゴミ出しが難しいという方への対応として高齢者ゴミ出し支援事業補助金があるが、この制度はご存じか。

## ○大椎台自治会

- ・敷居が高く使いにくいと考えている。藤沢市は個別収集であるが、ごみ袋は1袋80円とか非常に高い。高いことで良い面としては、少し減らしてあまり買わないようにしよう、プラごみはやめよう、使い切ろうとか、そういう方面に考え方が向けば、例えば1袋80円でも週に一度ですむとか、個別収集になれば市の負担も増えるが、自分のごみと向き合うという意味ではそれもありかなと思う。

### (区長)

- ・財政負担が大きい場合、市民の皆様にも一部でも負担してもらおうというような考えもあるが、千葉市のような都市の規模になると、個別収集できる諸条件が揃うのは難しいというのが現状である。

## ○大椎台自治会

- ・細かくステーションを分けていこうと考えているが、40世帯位が1か所のステーションを使っている地区があり問題になったため、3か所くらいに分けてステーションを増やした。似たような所がまだ何か所もあるので、本年度、分けていきたい。
- ・どこをステーションにするか住民の思いもあるので、半年ごとに自分の家の周りに持ち回りにするなど、という方式をとりながら、細かく分けて活動に取り組んでいきたい。

### (区長)

- ・ごみステーションの管理については、若干センシティブな面があるところ、地域の方に感謝している。市が管理してほしいというお声もあるが、地域の積極的な対応は本当にありがたい。

## ○大木戸町内会

- ・将来の学校統廃合について、現在は越智小も大木戸小も各学年1クラスしか無く、6学年合わせて100人いない。イベントは修学旅行のほか、運動会も1クラスでやるため大木戸小などは午前中2時間で終わってしまう。昔みたいに午後の部があって、親御さんたちとお弁当食べることも無い。6年間持ち上がりなのでクラス替えもなく、中学校も越智中が今年の1年生から1クラスになった。住所を移し南中や大椎中に通わせたいと考える親も中にはいる。せめて越智小と大木戸小を一つにしていきたい。
- ・急に大体300前後の高校に行き友達が作れない。子供達には責任ないので、親にも意見を聞いてみないと分からないが、考えていただきたい。

### (区長)

- ・確かに越智小・大木戸小は全学年で100人に満たず、中学校は100を超えるくらいという認識はあった。統廃合に関しては教育委員会の所管であるが、統合は難しい問題である。地域の方々を交えた協議会を設立しご意見を伺うなど段階が必要になる。越智小と大木戸小の統合について、現時点で私のもとには聞こえてこない。確かに、高校入学と同時に、いきなり多人数の中というような状況が生まれるというのはそのとおり。統合は難しくても、学校同士で交流をするなどやってみるのもよいとは、私の感覚としては思うところ。しかし、統廃合はなかなか難しい。
- ・皆さんは統廃合についてどう思われるか。

## ○サンヴェール千葉自治会

- ・他の市町村や緑区以外で統合している学校あるのか？

( 区長 )

・千葉市では美浜区の高洲地区などの実例がある。数年にわたり地元との協議を重ねており、簡単ではない。

## ○大椎台自治会

- ・人数が少ないと、自分とコミュニケーションが取りやすい友達ができずいじめを受けるケースがある。親子とも負担があり、地元の中学校にいければ一番いいと思う。大椎台に若い人が多くなっているが、大木戸小に入るために来るのではなく、土気南小に行かせるために土地を買って家を買う方が多い。残念なことではあるが、我が子、孫となったら越智小行きなさい、大木戸小行きなさいとは言えない。

( 区長 )

- ・少人数でも、少人数ならではのうち溶けた良さが得られて、いい思い出とともに成長してくれるというのが一番望ましい姿だと思うが、そのような問題があることも認識している。
- ・教育委員会でもステップルームティーチャーなどを配置することとし、いじめなどの問題には相当に気を遣っている。潜在的ないじめの問題も本当に難しい。

## ○越智町内会

- ・私は越智生まれで土気第一分校に入り、土気小に行って土気中を卒業したが土気分校が一番記憶に残っている。久しぶりに集まるのも良く、排除するのもいいと言えない。また、大網白里などはかなり統合していて小学校も遠く、バス利用などするとお金も掛かる。

( 区長 )

- ・メリットがあればデメリットがあるということで、悩ましい問題である。悩んでいるお子さんからするととても辛いことで人生に関わることである。そこは各担任が目配っているが、文科省も方針を変えており(教育委員会も)学校に連れていくという考えから、その子に合った多様な学びの場を作っていくという方向に転換している。
- ・統廃合はまずは地元の方の意向が第一であり、統廃合がなされた地域では相当な議論を重ねて数年間の時を経てここに着地したというところ。地元・保護者の皆さんがどう考えるのかというところは最優先しなければならない。

## ○大木戸台自治会

- ・災害について、2019年の大雨の時には一部のり面が崩壊して、その下にあった住民はいつ避難しなければということも耳にしている。擁壁も、かなり老朽化してまろくなっているところがある。一度調査の上で土地所有者に指導を出していただけるのか。

- ・大木戸第二公園について、原因はよく分からないが、ある日突然陥没し、応急的に復旧はしてくれたが、完全に原因を取り除いて復旧したとは思っていない。その辺も含めて経過観察はしていただきたいなど思っている。

( 区長 )

- ・場所を特定後、確認したい。

【 後日確認 】

- ・当該地は、千葉市の区域になる（昭和48年5月25日）前の昭和48年3月6日に、「千葉県宅地開発事業の基準に関する条例」により千葉県が許可をしており、昭和50年4月14日に千葉県が検査済証を交付しております。

本市の立場として、県条例にて開発され既に完了した擁壁やのり面に対して、指導や協議できる立場にはありませんが、所有者（確知できれば）に、民地の擁壁・のり面を安全な状態に維持するようお伝えすることはできます。

- ・大木戸第二公園につきましては担当部局にご意見を提供いたしました。

( 区長 )

- ・私からお聞きするが、災害時要配慮者名簿の提供は受けておられるか。

○大椎台自治会

- ・大椎台自治会では受け取っている。実際は7、8年、10年前くらいか、ただもらうだけで、一人一人どうやってサポートしていくかが分からないところで、ほったらかしという状態だった。

ようやく災害時要配慮者支援という地震時の問題で誰か一人ひとり、要配慮者に対する一対一対応で何かあったら声掛けする体制をつくるべき、ということで民生委員の方にも協力いただいて、そして今実際は5、60名居る。この方々を、一人ずつ担当を決め、月に一度くらい安否確認や困っていることが無いかということ踏み込んでお伺いするという形を、1年間で作り上げた。ごみが出しづらくなっている、分別もできなくなっている、など気づく。

- ・2000人弱の住人が大椎台団地におり、その中の本当に要配慮者っていうのは、自分で手を挙げた人、あるいは名簿に挙げられた方のみで、たくさん漏れている方がいる。この1年間で亡くなられた方がこの期で30名を超えた。孤独死や、朝起きたら冷たくなっていた方も多く、これは50数名どころではない。安心カードっていうのを作り、そこに連絡希望事項、持病など書き出してもらっている。市からの資料を見ますと、この後は、この人を誰がいざという時に、誰が見るのかを決めろというふうに次の段階になっているが、担当する私たちも80歳超えた人もおり、いざ災害に遭った時にその人を助けに行くことは到底できず、自分の身を守るのも多分精一杯だと思う。ケアマネにつなぐにしても、ケアマネも何十人も抱えており、現実的ではない。

( 区長 )

- ・その中で個別支援計画を作成している方もいる。

## ○大椎台町内会

- ・私たちはやっていないが、安否を確認している位。それ以上にもっと支援が必要な人がいる。区や市はどう考えてるのかお聞きしたいと思っていた。

### ( 区長 )

- ・要配慮者支援名簿は、一定の対象の方、65歳以上で一人暮らし、介護認定の高い方などが対象となる。この方々の見守り活動、また非常時の避難所への誘導を含めて、自治会での災害時訓練などに活用いただくため、名簿を受け取るという自治会には手を挙げていただいているが、市全体で30%台で、緑区もまだ20%台である。それも名簿に登載されている方々から了承を得た上での提供ということになるため、確かに掲載されていない方もいる。一部の方の情報を提供します、となっているのが現状である。
- ・その中でも市としては特に配慮が必要な方への個別支援計画を作ろうとしている。最近、着手が始まったばかりで、1000件を目指す上で500、600辺りまではできているが、来年度は500件を予定しているところである。市も危機感を持っており、まずは計画を作成し、自治会の皆様に名簿を受け取っていただいて、日ごろの声掛けや、年1回程度の訓練、その方をどうやって避難所まで移動していただくかということも併せてやっていただけると、ありがたいという想いである。なかなか、そんなことまではできません、無理だという声もあり、現在、試行錯誤をしながら取り組んでいる。
- ・能登もそうであったように災害時にとっても行政だけでの対応は難しい。千葉市は最大震度6まで想定されており、全職員が災害対応に全力で臨むが、地域支援に皆さんのご満足をいただけるような頭数を揃えることはできない。地域の皆さんと行政と一緒に乗り越えていく、このことははっきりしており、そのためにまず、厳しい状況の方をどうしていくかを考えていく、それから備蓄品をどうするかを一体的に考えていく必要がある。ここまできているから大丈夫、という状況をどこまで高めていけるかだと思う。
- ・災害時用のトイレも準備はされているか。

## ○大椎台町内会

- ・大木戸小学校避難所運営委員会のように中で毎年決め、仮のトイレを設置するとか、マンホールトイレなど考えてやっているところはある。

### ( 区長 )

- ・マンホールトイレだけでは足りないこともあり、各御家庭での簡易用トイレも必要になる。

## ○大椎台自治会

- ・簡易用はどこまでやっているかわからないが、避難所運営委員会の行動マニュアルや教室の利用法に関しては、特に学校の先生などのほうがよく知っている。防災の専門家がそれぞれの避難所に関しては行動マニュアルと、この部屋の利用形態これにきなさいとか、指摘していただいたほうが良いと考える
- ・指示の上でマニュアル整備をし、地元住民と一緒に中身を変更して決めないと難しい。備蓄品についても、毛布もない、タンパク質が無いと炭水化物の食べ物しかないなど、避難はしても、安心して生きていけるのかわからない。

( 区長 )

- ・ 備蓄品も、見直しをしていくべきだという声も出ている。

○大木戸台自治会

- ・ 緑区の財政は、今のところ、黒字なのか、赤字なのか。

( 区長 )

- ・ 区の予算は市全体の予算の中で執行している。区ごとに予算編成を行っているわけではない。

○大木戸大自治会

- ・ 様々な課題があるが、予算がなければ全て絵に描いた餅になる。今までの話を聞いて、区長はどのようにしていくか、ある程度の構想はあるか。

( 区長 )

- ・ 学校の問題に関しては、教育委員会が所管となるため、教育委員会に対し、地域の意向に沿った検討を要望する立場となる。災害に関しては、危機管理部や6区長で意見交換の場があるため、災害備蓄品の見直しやトイレの問題など共に取り組んでいく。災害時の電源の確保というところも、民間との協力を得ながら進めていくことも必要だと考えている。
- ・ 緑区だけの問題ではない事案は6区長が協力して、市の所管に、総意として意見・要望を申ししていく必要もあり、個別の課題については、当該区長と所管局長との間で協議し、地域の意向を踏まえた取り組み実現に向け、所管局による予算要求を後押ししていく。

○大木戸台自治会

- ・ 区職員の生活の原資は一体どこから来ているのか、ということを考えてプロ意識を持って、仕事していただきたいというのが、一般市民からの意見としてある。
- ・ 緑区に限らず日本国内での問題になっているが、税金が高すぎる。ここ5年近く高い税率となり、子どもの進学もなかなかさせられない。皆さんの生活も私たちが支えていることになるので、ぜひ、頑張っていたきたい。何ができるのか、機械的な事務作業プラス、人間として何ができるのかというのを考えて、市政運営していただきたいのが私の思っているリーダーであると考えている。

( 区長 )

- ・ 仰る通り私たちの仕事は税金を原資として給料が支給されている。職員はそれを当然だと思わずに、それに見合う仕事をする必要があることは、各職員に折に触れ言及している。各部署で、今何をすべきか、また縦割りではなく横との連携をとっていくことも重要。財政状況は潤沢ではなく、厳しい状況が続いている。以前は職員の人件費も削減し、何とか財政危機宣言を解除したが、今は施設更新やインフラ整備が重くのしかかり、再び厳しい状況にあると感じている。いただいた意見はしっかり受け取め、仕事をしていきたい。

#### 4. 地域運営委員会について

市民自治推進課より、地域運営委員会の概要及び取組状況について説明。